



あらためて「65 歳になったら肺炎球菌ワクチン」を考える



医師 中村 琢弥

猛暑を終えて、少しずつ秋に向かって涼しくなってきました。診療現場も冬にむけて忙しくなっていきます。ある意味、医療スタッフとしては季節感を感じる変化です。

さて、昨今は様々なワクチン行政にも動きがあり、正直変化を追いかけるのも一苦労ですが、皆様は「高齢者用の肺炎球菌ワクチン」についてはよくご存じでしょうか？数年前より行政からいろいろなキャンペーンが行われており、少しずつ接種者も増えていました。



もちろん、こちらのワクチンは重症度予防効果も医学的に認められているものです。当初は知名度などから接種者数が伸び悩んだものの、本来対象とされていた 65 歳よりも高齢の方にも対象を拡大しての助成接種制度が時限的に行われていました。

しかし、この時限的制度もついに終わり、2024 年度より本来の想定されていた以下の対象のみ、助成での接種と変化しました。



対象者 1	対象者 2	対象者 3
65 歳の方 	60~64 歳で、 心臓や腎臓、呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活を極度に制限される方	60~64 歳で、 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり日常生活がほとんど不可能な方

さて、対象者 2 と 3 の方は少なくなり、多くは対象者 1 に該当するかと思います。これはつまり、「65 歳となったタイミングでのみ助成をもって接種できる」ということで、「わずか 1 年しかその対象期間がない」ということになります。例えば、接種したい心づもりがあっても、ついうっかりとこの期間を逃してしまうと助成を得られない、ということなので注意が必要なわけです。



よって、当センターでもなるべく対象や対象近くになった方にはアナウンスを心がけております。助成があるとはいえこのワクチンは有料であり（竜王町事例では助成含めて 4000 円）、あくまで接種は任意ではありますが、お勧めできるワクチンの一つでもあります。「現時点で 65 歳の皆様」、ぜひご検討いただくと嬉しく思います。よろしくお祈りします。





おとなのワクチン②

看護師 宮井 由里子

ワクチンも他のお薬と同様に副反応が起こることがあります。ワクチンの効果も必要ですが副反応に対する理解も必要です。

例えば、注射部位の痛み・発赤・熱感などはよくありますが、重い副反応が起きたり、4日以上症状が続くときは医療機関に相談して下さい。



ワクチンの接種記録を残しておくことはとても重要です。子どもの場合は母子手帳でしっかりと管理をします。何歳になったらどのワクチンを、次は何歳になったら打つかを把握することはもちろんですが、大人の場合も同じです。

接種された方には接種記録の用紙をお渡ししていますが、お薬手帳や血圧手帳などと同様に必ず手元に残しておいて下さい。

医師がワクチンの接種履歴を確認するときに非常に助かります。

ちょうど今の時期はインフルエンザワクチンの接種が始まっていますが、今年からはコロナワクチンも一緒に接種できるようになっています。

これから寒い時期に入ってインフルもコロナも増えてくるかもしれません。ぜひ予防接種を受けてくださいね。



～お知らせ～

医師の不在・診療体制変更のお知らせ

【 11月 】

- ・ 2日（土）・ 8日（金）…………… 田中医師
- ・ 11～13日…………… 清水医師
- ・ 14日（木）…………… 横川医師
- ・ 22日（金）…………… 大竹医師

【 12月 】

- ・ 2日（月）…………… 一岡医師
- ・ 4日（水）11日（水）…………… 喜多医師
- ・ 6日（金）・ 7日（土）…………… 田中医師
- ・ 14日（土）…………… 中村医師

☆ 29日（日）～1月3日（金）…… 年末年始のため休診



育児相談外来を行っております

毎週金曜日の14：00から育児相談外来（無料）を行っております。詳しくはホームページをご覧ください。

マイナンバーカードで受付をお願いいたします

受付にマイナ機器を設置しております。マイナンバーカードでの受付をお願いいたします。



糖尿病教室へのご参加ありがとうございました

10月19日の糖尿病教室に13名の方が参加して下さいました。ありがとうございました。

次回は来年2月開催予定です。次回もお楽しみに！